

第1回議会定例会

平成24年第1回議会定例会は3月6日から12日まで開催され、平成24年度町政及び教育行政の執行方針説明（広報ぴっぴ4月号掲載）のほか、条例改正、補正予算などが審議されました。一般質問では、2名の議員から4項目の質問がありました。その内容の要旨は次のとおりです。



第1回議会定例会の様子

比布中学校校舎建設・改修計画について



佐藤康則 議員

さらに、各教室・廊下の採光を取る為、ふんだんに設けられている窓枠建具が旧式の為、劣化状態にあり気密性も非常に劣ります。

質問 現比布中学校は昭和53年3月に校舎が、同10月に体育館がそれぞれ建設され、以来2038人の子供達が巣立ち、この3月にも更に43人の生徒が卒業を迎えます。学舎として大変重要な役割を果たす大切な建物であり、体育館は平成21年に耐震強度補強工事と共に大規模な改修が施されておりますが、校舎については建設以来、軽微な補修を繰り返して、現在に至っております。

建物としての構造体自体、耐震強度を上回る丈夫な躯体であつても、1階玄関と並列した、つなぎ廊下の天井部分及び8箇所のトップライト付近からのすけ漏りが、頻繁に発生し何度も補修を繰り返しております。

また、外観を見ると校舎躯体全体に無数のクラックが発生しており、コンクリートの性質上、外気温の変化による膨張・収縮、浸透する水分の凍結・融解により一層、広範囲に拡大する状況にもあります。

また、現中学校の校舎は当時1学年2クラスから3クラスを想定し建設された建物であり、現在の生徒数に対しては大きくざるの事実で、改修の場合、実質必要以外の空間にもコストを掛け維持・管理を継続していくことにもなります。

いずれにしても早期の判断、さらに準備が必要と思われます。比布中学校校舎の建設・改修について、どの様に計画されるか町長の考えを伺います。

町長答弁 比布中学校は、年数の経過により近年は施設の老朽化が進み、何度かにわたり部分的な修繕費を費やしながら、現在に至っております。

私も心配をしておりました耐震性につきましては、耐震診断を実施し平成19年10月に耐震診断判定委員会より、校舎は耐震

性を確保しているという報告を受けていますが、体育館につきましては、耐震性能を示す構造耐震指数が基準値を下回り倒壊の危険性が高いと診断されたために、平成20年度に予算を補正して耐震補強改修工事を実施し現在に至ります。

校舎の建設・改修は第10次まちづくり計画では主要施策として計上しておりませんでした。私も現場を確認し現状は年数の経過から、様々な箇所問題が発生していることも現実で、生徒、そして教職員の皆様に大切に使用していただいてもなお、質問と同様の問題、さらに水道設備や暖房設備、放送設備など、補修をしなければならぬ箇所が多く出てきているのも現実です。

修繕につきましても、毎年のように要望が出され、近い将来の改築・改修も想定しながら、緊急性の高い修繕箇所から順次行い、大規模な費用を要するものについては極力我慢をさせていただいているのが現状です。

また、建築時の昭和53年当時9学級302人の生徒数であったものが、現在は99人ということで、使用していない教室にも経費がかかり不経済と思われる状況にもあります。

このような現況を見た時、次代を担う子どもたちにより良い教育環境を整備することも、私どもに課せられている義務であり責任でもあります。



また、災害時の避難施設でもあることから多くの議論が必要と考えているところで、24年度に中学校校舎改築・改修検討委員会を設置し、可能であれば次期まちづくり計画の早い段階での事業着手に向けて、教育委員会や議会、学校関係者を始め、広く町民の皆さん方のご意見等もいただきながら、計画に取り組んでいきたいという考え方を持っております。

防災行政無線施設更新事業の具体的計画は



遠藤ハル子 議員

再質問 段階的に議論を経て、中学校の改築・改修の解決に向けて進んで行くと言う事ですが、中央小学校校舎で約5億3000万円、体育館で2億1500万円程の財源が必要とされましたが、中学校校舎、改築・改修する場合の財源の確保、また地元負担の準備、国庫補助金の見通しはあるか更に、校舎を中心に給食調理室と体育館との間隔が大変広く、有効に活用するには、大変難しい手立てが必要と思われま

す。どちらか一方を生かしていくのか、検討委員会等でも議論をされる事と思いますが、今現在町長の考えは、どのような解決

策があるか伺います。

町長再答弁 財源問題でありますが、ここ数年、交付税が落ち着いているということ、更には、国の補正予算による臨時交付金の、前倒しもした経過もあり、中学校・その他の公共施設の改築・改修の必要性についても認識をしておりますので、仮に中学校改築・改修に向けても一定程度の準備対応する事は可能です。

給食施設と体育館との関係は、もちろんこの2施設を生かした形状を確保するのが最良の策と考えますが、今後の検討委員会等の多くの機会での議論も経ながら、計画的に進めて行きます。

質問 今の防災行政無線は長年、使用してきましたので故障が出て不便を感じています。

新しい機器は、「放送時間に聞けなかった時に後で再生ができれば都合がよい」などの要望が届いています。

町と行政区放送、比布農協、消防なども使うため、各団体の利

便性も考慮しなければなりません。が、機種を選定時には高齢者も使いやすく、かつ利便性も考慮した選定に努めてほしいと考えますので、具体的な選定をどのように考えているのか町長に伺います。

町長答弁 更新にむけて平成23年度に施設の実施計画を行い、